

輝く！

## 山村の女性たち⑦5

### 「仕事を通して山の魅力を伝えたい」

さいとうあかり

齋藤朱里さん（栃木県大田原市）



仕事を笑顔でこなす齋藤朱里さん

大田原市は栃木県の北部に位置し、市東部は八溝山系の美しい山並みが連なる日本の原風景が残る地域です。中でも黒羽地区は、古くから林業が盛んで、これまでの成果が今に引き継がれています。当地は那須与一ゆかりの地でもあり、また松尾芭蕉が奥の細道紀行で最も長く滞在した地でもあります。今回は、この地区で生まれ育ち、地元の森林を管理する大田原市森林組合で働く齋藤朱里さんを紹介します。

#### 我が家も山を持っていた！

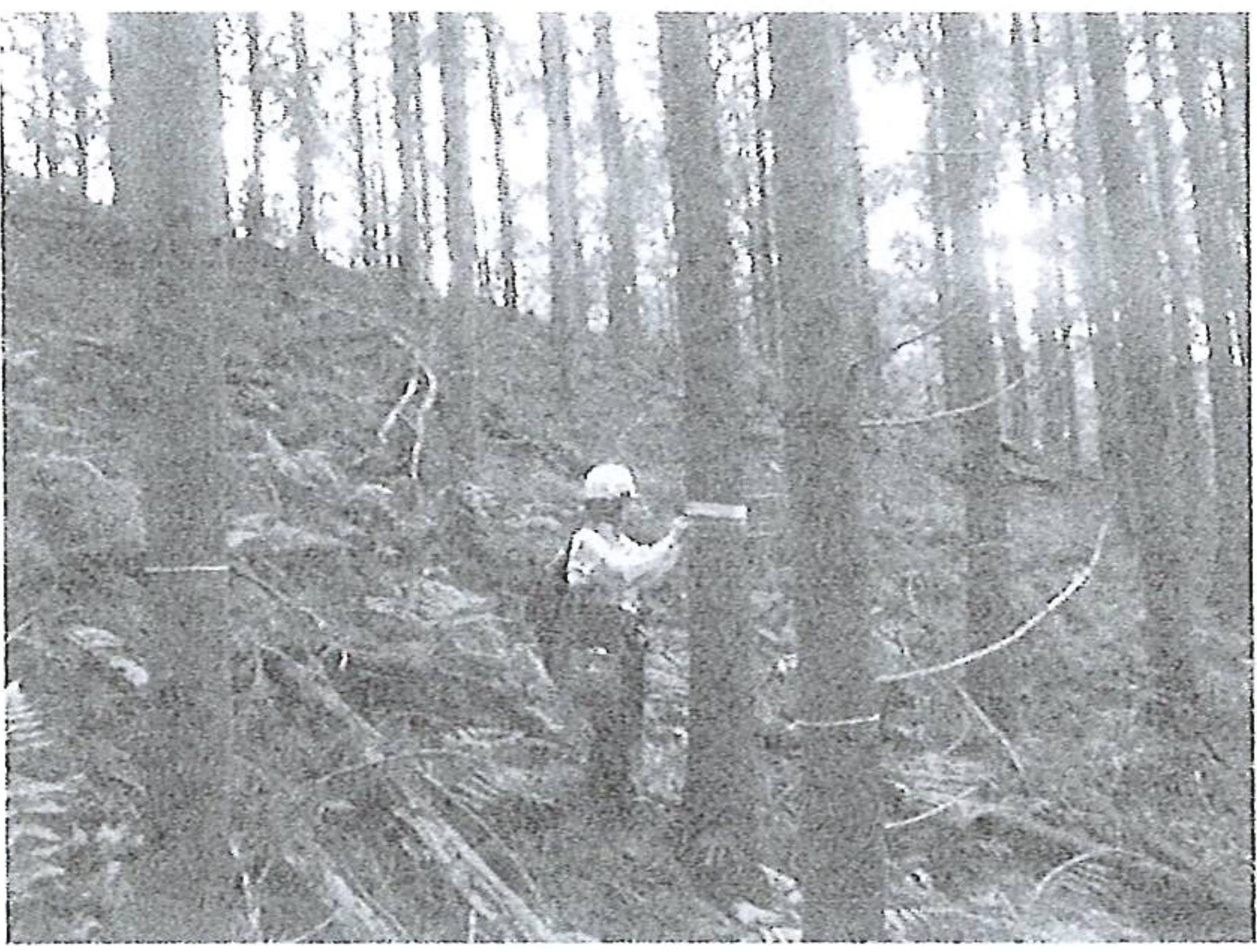
栃木といえばイチゴですが、齋藤さんも、とちおとめの栽培農家の末娘として生まれ、両親にかわいがられて育ち、兄二人にくつついているお転婆なお嬢さんだったようです。

大学生になるまで、自分の家が森林を所有しているなんて思ってもみなかつたとのことです。おじいちゃんが2段梯子を持って出かける姿を記憶していますが、林業を学ぶようになって、それが枝打ちに行っていたのだとわかったそうです。

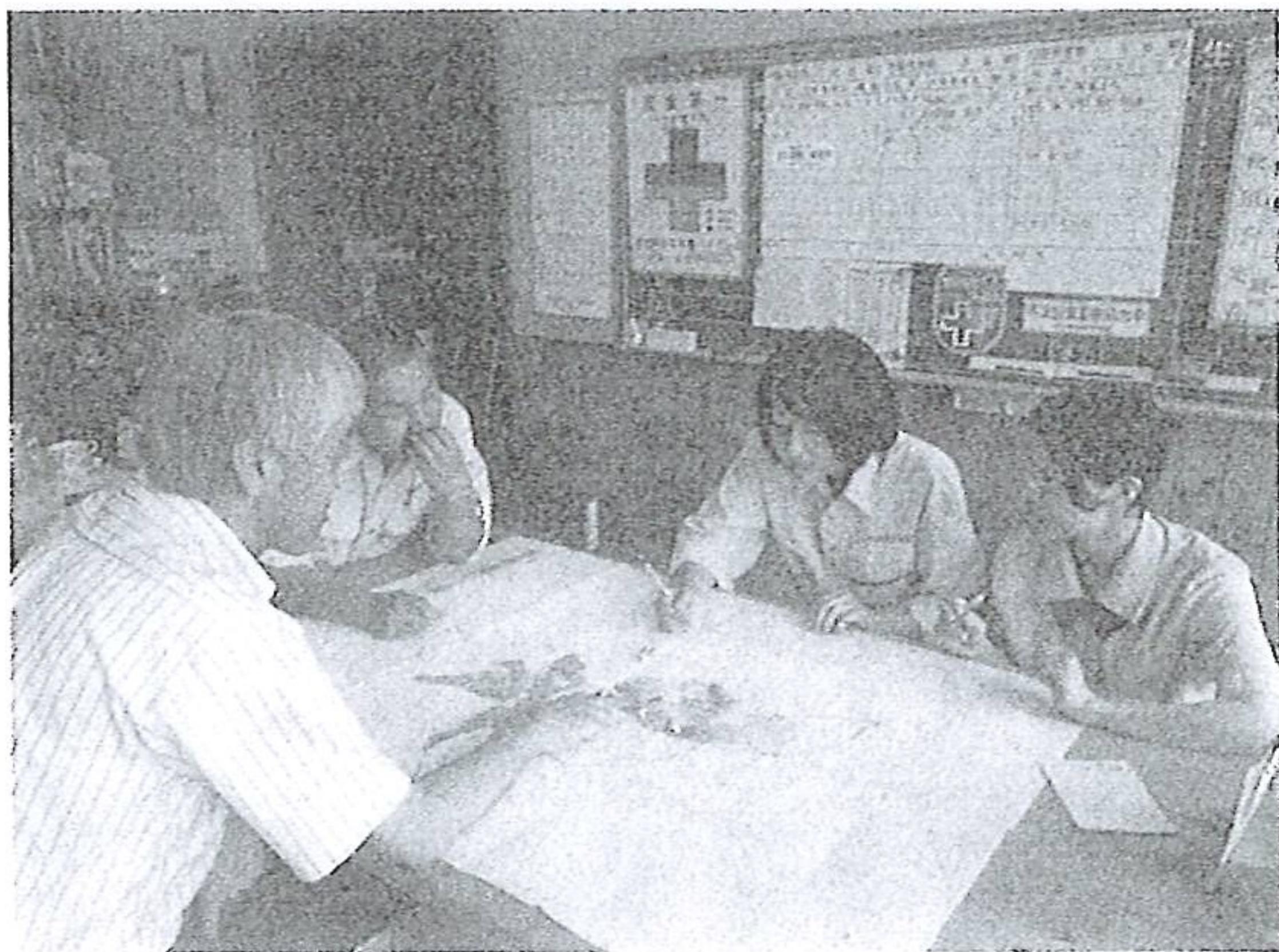
#### 林業との出会い

砂漠の緑化等の環境問題に関心を持った齋藤さんは、東京の短期大学に進学し、環境問題について学んでいくなかで、林業を知りました。もっと林業について学びたい、将来は林業を仕事にしたいと思い、地元の宇都宮大学森林科学科に編入しました。

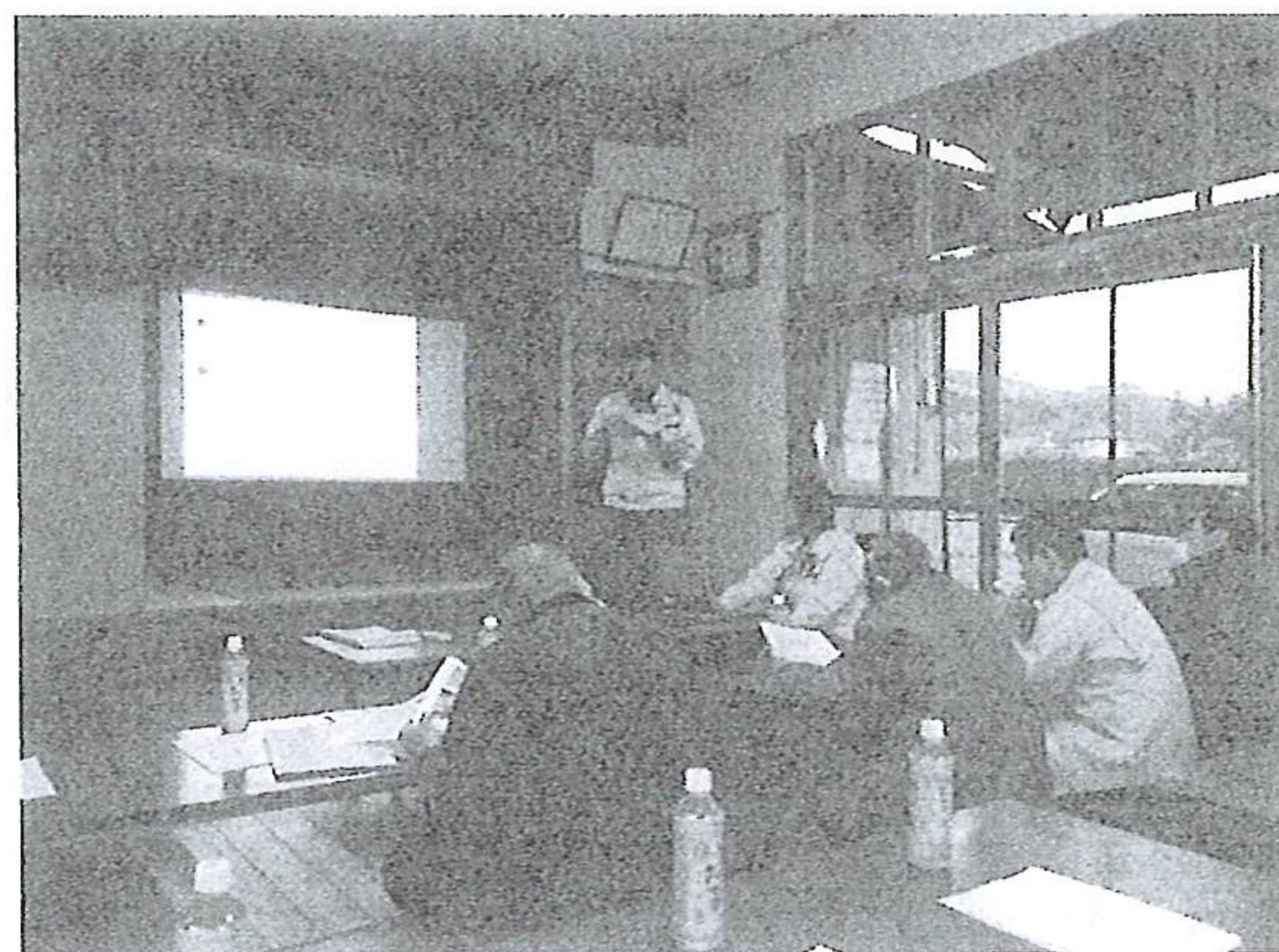
また、木が好き！山を守りたい！林業を活性化させたい！という気持ちから「林業女子会@栃木」を立ち上げました。林業女子会の発祥は京都。「力仕事はできなくても、女子ならではの瞬発力、発想力、発信力といった男子とは違う立ち位置で女子力を大いに發揮しましょう」とのメッセージに共感、全国で5番目に女子会を組織。お茶を楽しみながら一般の方々とともに森について考える「林（りん）カフェ」を開催や、森林環境税のPRイベントに参加するなどして、山の魅力を多くの人に伝えてきました。女子会の活動は、後輩たちに引き継がれ、多様な女子力で山の魅力を発信しています。



よりよい山づくりのために



森林経営計画作成の打ち合せ中



地元説明会で、先輩の説明を手伝う齋藤さん



森林組合職員の皆さんとともに

## 森林組合に就職できた

齋藤さんは大学で林業を学ぶうちに、林業を仕事にしたいという思いが強くなり、出来るなら地元のために働きたいと考えました。自分の山を手入れしていたおじいちゃんとともに、大田原市森林組合を訪ねます。同森林組合からは、しばらく音沙汰がなかったため、諦めかけて別の就職活動を始めていた頃に採用の連絡が。そして、森林組合での採用が決まってから間もなく、おじいちゃんは亡くなられたそうです。

そして、就職してから1年3ヶ月が経ちました。現場に出るのが初めての女性職員のため、周囲に心配をかけていると本人は言っていますが、チャーミングな笑顔と親しみやすい人柄から、組合の皆さんからも大人気です。今は先輩と一緒に、現場まわりをしたり、林家さんの要望を聞いたり、行政との調整をしたりと、いろいろな仕事を覚えている最中です。一日でも早く作業班員とともに、健全な森づくりをしたいと考えています。

## 将来の夢

齋藤さんは現在、車両系木材伐出機械の運転の業務に係る特別教育講習会等を受講し、少しづつ技術も身につけています。今後は、森林施業プランナー認定試験を受験し、栃木県で女性第一号の登録プランナーを目指すとのことです。先輩からは、女性だから気づく部分もあるし、現場も事務も両方出来る職員になって欲しいと期待されています。

将来は、作業班員の皆さんのが働きやすい職場づくりと、組合員の皆さんのが森林組合に施業を頼んで良かったと言ってもらえるような職員になりたいと考えています。

「今、自分の山をわからない人が多い。山に興味を持ってもらえるようにするのが私の仕事。次の世代に健全な姿で森林を引き継ぐことができるようお手伝いしたい。山を持っていて良かったと思えるようにしたい。」と話す齋藤さん。おじいちゃんの山への思いを引き継ぎ、歴史ある黒羽地区の森林を美しい姿で次の世代へと引き継いでいくことでしょう。

川上晴代（栃木県県北環境森林事務所林業経営課）

※このコーナーは「豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク21」の会員が担当します。